

ANNUAL REPORT 2024

2024年度 事業報告書



喜ぶ人と共に喜び 泣く人と共に泣きなさい

2024年度、私たちは基本聖句である「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。（ローマの信徒への手紙12章15節）」に基づき、世界や国内のYMCAと共に歩み、困難に直面している方々に寄り添い伴走する活動を継続しました。

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、息の長い支援活動を展開いたしました。金沢市での1.5次避難所支援を3月末で終えた後、4月からは東京YMCAが中心となって支援してきた輪島市町野町の避難所運営を引継ぎ、富山YMCAをはじめとする全国のYMCAが、協力して支援を継続いたしました。夏には、子どもたちの笑顔が輝くリフレッシュキャンプを開催することができましたが、その喜びもつかの間、9月には同地域が水害に見舞われました。重なる苦難に対し、全国YMCAは直ちに水害ボランティアを派遣し、募金を実施するなど、支援活動を継続しております。

世界に目を向けると、ウクライナ、パレスチナ、ミャンマーをはじめ、各地で分断が深刻化し、独裁的な政権の台頭が懸念される状況が続いています。このような状況下で私たちは各国のYMCAと連携し、共に生きる世界の実現を目指して活動を推進いたしました。5月と10月には、パレスチナYMCAとオンラインで繋ぎ、平和を祈る集会を開催し、世界YMCA同盟のカルロス総主事、レバノン在住のソヘイラ会長をはじめ、毎回100人以上に参加いただきました。遠く離れた地から平和を願い、連帯の意を示す活動を粘り強く続けると共に、緊急支援募金とオリーブの木キャンペーンも継続してまいります。

全国から多くの募金をいただいているウクライナ支援活動は、3年目となりました。YMCAは、避難者への直接的支援において、国内で最も大きな役割を担う団体の一つとして認識されています。9月と2月には、避難者の声を聴くシンポジウムを開催し、YMCA独自のアンケート結果とともにその人道支援の働きは多くのメディアに取り上げられ、社会的な注目を集めました。9月には、5年ぶりに日韓YMCA連絡委員会がソウルで開催され、韓国YMCA連盟110周年を祝うと共にあらためて日韓の歴史を学び、今後の平和のため交流事業の活発化を約束しました。12月には、2年ぶりに東京で日台YMCA連絡委員会が行われるなど、北東アジアでの平和構築に向けた交流が拡がりました。

11月に行われた日本YMCA大会では、多数のユース世代が参加し「世界YMCA Vision2030」について具体的な提案がされました。10月にケニアで行われた「世界YMCAアクセラレーター・サミット」の参加者報告や、国内外のチェンジエージェントの発表もあり、世界の仲間と協議することができました。

日本YMCA研究所では、新たにオンライン研修がスタートし、1574人が参加しました。これまでの研修に加えて、全てのスタッフに学びの機会の充実を図っていきます。また、「インターナショナル・チャリティーラン」の全国大会委員長には、パラ競泳の富田宇宙選手を迎え、障がいの有無を越えた共生社会へと全国で力を合わせています。

今後も私たちは、世界のYMCAと共に「Vision2030」を推進していきます。引き続き、ご理解、ご協力をお願いいたします。

日本YMCA同盟 会長

山本 俊正

日本YMCA同盟 総主事(代表理事) 田口 努

みつかる。
つながる。
よくなっていく。

Contents

02	2024年度ハイライト
06	ウクライナ避難者支援プロジェクト
08	能登半島地震／豪雨災害 復興支援活動
10	ブランディング推進協力
11	ポジティブネット創造
12	学生YMCA
13	日本YMCA研究所
15	国際青少年センター YMCA東山荘
16	寄附・支援
19	委員会報告
22	日本YMCA大会／日本被団協
23	全国YMCA総主事会議関連報告
27	現勢 関係団体
28	日本YMCA同盟組織
29	2025年度事業方針・計画
32	全国YMCA一覧

「世界YMCA Vision2030」へ 世界の仲間と手を携えて



日本YMCA同盟 2024年度年間基本聖句
「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」
ローマの信徒への手紙12章15節（新共同訳）

I 「世界YMCA Vision2030」の推進

日本のYMCAは、2016年からブランディングプロジェクトを始め、2期にわたる「日本YMCA中期計画（2017～20年、2021～23年）」を経て、「世界YMCA Vision2030」の推進を開始しました。このビジョンは、世界YMCAによって2022年に採択されたもので、世界中のYMCAがそれぞれの地域課題のためにやっているプロジェクトを、世界のYMCA運動と連動させることによって社会的インパクトを起こし、気候変動や紛争、貧困など世界規模の課題を解決しようとする実践的な目標です。

日本YMCA同盟はこれを推進するため、同盟協議会や日本YMCA大会でその理解を深めるセッションを設けたほか、10月にケニアで開催された「世界YMCAアクセラレーター・サミット」にもスタッフを派遣。ウェブサイト等からも適宜情報を発信して世界と日本とをつなぎ、取り組みをサポートしました。

「日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります」——。私たちは引き続きブランディングに示された価値を推進し、高めながら、世界の仲間と手を携えて歩んでいきます。



Community
Wellbeing

4つの活動領域——01

コミュニティー ウェルビーイング

ポストコロナの時代にすべての人が、個人と集団のウェルビーイングを大切にしながら精神、知性、身体のバランスの取れた成長ができることを目指す。

少子化の影響を受けながらも全国のYMCAは、アフタースクールや保育園を新設するなど、在籍者数を増やしています。保育園の卒園児がアフタースクールに通い、水泳や英語も習うなど、子どもたちの成長に寄り添い「伴走」する取り組みを続けています。

しかし子どもを取り巻く社会環境は厳しく、いじめや不登校児童数は最多を更新し続けており、加えて貧困問題、外国にルーツのある子どもたちのケアなど、課題は尽きません。全国YMCAでは、居場所プログラムや発達支援、「ピンクシャツデー」などさまざまな取り組みを行い、全国の事業担当者会ではスタッフ研修や情報交換によってそれを強化するなど、「コミュニティー ウェルビーイング」を目指して活動推進しています。



Meaningful
Work

4つの活動領域——02

やりがいのある仕事と雇用環境の創造

すべての若者が価値のある有意義な仕事に従事し持続可能な生活を築けるよう、公正かつ公平な教育、雇用、トレーニングの機会を創出し提供していく。

世界YMCA同盟とYMCAオーストラリアによる世界のユース対象アンケートでは、多くの国の若者が雇用機会に恵まれず、将来に希望を持てずにいる実態が明らかにされました。これを受けて各国YMCAは、IT教育など職業訓練の実施や、雇用機会の提供などに重点的に取り組み始めています。

日本のYMCAも、企業と協働で児童養護施設の子どもたちにプログラミング学習機会を提供したほか、ワイズメンズクラブと協働で、社会課題に取り組むユースをサポートする「Y's×SDGs Youth Action」を実施。ユースエンパワメントに力を入れました。

またYMCAで働くスタッフが、やりがいや夢をもって従事できるよう「全国YMCAオンライン研修プラットフォーム」を新設し、従来の研修と合わせていつでも学ぶことができる機会を提供しています。



Sustainable
Planet

4つの活動領域——03

持続可能な地球のために

気候変動に対する若者の高い危機意識と積極的な発言から、若者主導による持続可能な地球のための解決策を推進し、気候変動に取り組む運動体になることを目指す。

酷暑、豪雨など、異常気象が激しさを増し、アジア・アフリカ諸国をはじめ世界各地の暮らしに影響が生じています。世界YMCAは継続してCOPへユースを派遣しており、各国YMCAも植樹活動や太陽光発電の導入をするなど、取り組みが広がっています。

日本のYMCAもその実施を促進するため、11月の日本YMCA大会では、環境問題の専門家を招いて学びの時をもちました。「電力契約を再生可能エネルギーに切り替えるだけで、CO2は半減できる」など具体的な提案もあり、各地で「再エネ」への切り替えが進みました。またユースによるリサイクルへの取り組み、環境教育の実施なども各地で行われています。

昨年度「再エネ」に切り替えたYMCA東山荘は今年、太陽光発電やエコカー用の急速充電器の設置をし、CO2排出ゼロ施設となりました。



Just
World

4つの活動領域——04

公正な世界の実現のために

正義、平和、公正を求め、すべての人の人権を守ろうと努める若者やコミュニティと共に歩む。組織的な差別、不公平、不正などあらゆる種類の人種差別の課題においてグローバルな発信者となることを目指す。

収束の見通しが立たないウクライナへの軍事侵攻。パレスチナへの攻撃。人道危機が叫ばれる中、世界は解決の糸口を見いだせないどころか分断を深め、憎しみと不安が渦巻いています。

YMCAは引き続き、ウクライナ避難者への支援活動を行ったほか（6ページ）、パレスチナには募金を送るとともに「オリーブの木キャンペーン」を実施。また5月と10月には「オンライン祈禱会：パレスチナのために、世界のために」を開催し、国内外の関係者と共に祈りを合わせました（17ページ）。

「日韓学生YMCAプログラム」や「広島ユース・ピース・セミナー」など各国ユースと共に平和を考え、交流の輪を広げるプログラムが各地で行われ、2月の総主事会議では広島県原爆被害者団体協議会の佐久間邦彦理事長を講師に核兵器廃絶を考える時をもつなど、緊張が高まる世界に平和を取り戻そうと力を尽くしています。



II 全国のYMCA運動の連結ピンとしての同盟機能の維持に努める

同盟は、総主事会議をはじめ各事業担当者会等と連携し、全国YMCAの財政再建や事業強化、将来構想の推進を担うと共に、特に困難な状況にあるYMCAには個別の伴走支援も行っています。2024年度は引き続き福岡YMCAの総主事代行も務めました。

また全国YMCAの代表機能として、世界YMCAやアジア・太平洋YMCA同盟はじめ各国YMCAとの関わりも強めているほか、NCCや中央青年連絡協議会など関係団体の役員も担うなど、「連結ピン」としてYMCAの働きを内外につなげています。

能登半島地震／豪雨災害の支援活動においては、現地と調整して延べ300人余りのスタッフを派遣。情報収集や発信、募金の呼びかけなど、事務局として活動を支えました。

III 同盟事務局とYMCA東山荘の運営健全化を目指す

社会協働事業として、アマゾンジャパンやナイキ、ピーナッツ財団、東京都等との連携を通じて外的資金を得て、貧困、格差、多文化共生等の今日的課題の解決に向けた活動も行いました。

YMCA東山荘の利用者は、前年より約1千人増えて30,027人となりました。地域住民の利用も増えたほか、他団体と協働でフードバンクを実施したり、外国にルーツのある子どもたちにプログラムを提供するなど、地域ニーズに応える活動にも注力しています。

12月から3月にかけて、老朽化した6号館と黙想館の改修工事を行い、内装も外装も新しくなりました。特に6号館の客室内は、トイレや洗面所など水回りの設備も刷新され、明るく、使いやすくなりました。

ウクライナ避難者支援プロジェクト

ロシアによる軍事侵攻から3年、戦争の終わりが見えない不透明な情勢の中、世界では今も約650万人のウクライナ人が避難生活を余儀なくされています。日本には2025年3月末までに約2,800人が避難し、YMCAではそのうち1,800人の生活相談、伴走支援を行っています。戦争の長期化を見据え、定住か帰国か揺れ動く避難民一人一人に寄り添い、生活支援、就労支援、子どもの進路進学サポート、日本語学習相談、QOL（生活／人生の質）向上のためのイベント開催、そして帰国支援など、多種多様な活動を展開しました。



1.「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業」

約600人の避難民が集中する都内の避難民の支援策として、2022年7月に東京都および東京都つながり創生財団と協定を締結して開始した「東京都ウクライナ避難民マッチング支援事業（ポポートニク・トーキョー）」を、2024年度も継続して実施しました。都内の避難者宅訪問や電話、SNS等を通じた相談対応を行い、各種現状調査を実施、避難者の現状やニーズを把握し必要な支援へとつなげるとともに、避

難者のニーズを広く社会に発信する政策提言活動も行いました。

○訪問・相談対応件数：956件（避難民自宅訪問件数 155件含む）

○定例会実施：隔週1回、東京都ほか関係団体と会合をもち、調査結果や支援内容、課題などを報告・相談

○マッチング支援件数：830件（2024年4月～2025年3月）

相談分類	件数	主な支援
物資	90	生活用品（自転車、衣料品、生活家電など）、学用品（ランドセル、文具など）ほか
日本語	92	多様なニーズに応じた日本語教育（就労、オンライン、地域の教室、検定試験など）
就業	125	キャリアカウンセリング、ハローワーク同行、フルタイム移行支援、就業先対応
手続き	127	ビザ更新、補完的保護・定住支援プログラム、日本財団関連、都営住宅延長 ほか
財政	123	生活困窮・生活保護相談、各種支援策終了に伴う相談対応
教育	83	受験・進学対応（学校見学、説明会同行など）、進級・入学準備、学校との相談対応
医療・メンタル	90	体調・メンタル不調者、発病・持病悪化、インフルエンザ・熱中症などの対応
生活・やりがい	58	趣味・サークル活動支援、イベント出展・協力、生きがいづくり
その他	42	帰国・一時帰国、引越し、移住、家族呼び寄せ対応、空き家情報、法律相談 ほか

2. 生活オリエンテーション

避難者が来日後、住環境が決まるまで滞在するホテルで、日本の生活についてオリエンテーションを行いました。

○実施回数：22回（4月～3月、隔週水曜日）

○参加人数：20人

○内容：都営住宅への引っ越しに関する案内、ごみの分別や

買い物など生活情報、気候や災害についての心構え、また日本語学習や就業、教育のためのガイダンスなど、日本で暮らすための基本的な情報をウクライナ人スタッフが説明しました。

3. イベント、交流の機会提供

①定例事業

ウクライナ文庫（常設）約600冊の蔵書貸出

②東京都や各自治体主催のイベントへの協力

（FC東京のサッカー観戦、地域生活サロン等）

③Ukraine Cafe HIMAWARI (YMCA主催事業)

○実施回数：6回

○参加人数：186人

○実施内容：避難民とその家族を対象に、多言語での生活相談や教育・就業支援、ウクライナ語の本を取りそろえた常設図書館『ウクライナ文庫』の運営、避難者・支援者のリフレッシュを目的とした各種イベントの実施、避難者主導の事業・イベント実施支援など

●常設 図書館「ウクライナ文庫」（遠隔地含む）

●常設 衣料品・生活用品提供コーナー

●避難者就労支援企画：

避難者向けオンラインIT研修コース（8週間）2回

●避難者・支援者リフレッシュ企画：

夏休み宿題サポート（日本YMCA同盟）

クリスマス人形劇・パーティ（東京YMCA）

YMCAサマーキャンプ（東京YMCA山中湖センター）

●学び直しの日本語サロン（個別・竹ノ塚駅前会議室）

（YMCA・NPO法人メタノイア協働新規事業）

●避難者主導の事業・イベント実施支援（YMCA事務所）：

プレイバックシアターグループ（22回）

4. 協力者や専門家（有識者）との協力

大学教員（大森佐和氏：国際基督教大学教授）、YMCA国際協力委員、難民支援に関わる団体・有識者、ヨーロッパYMCA難民担当者らと意見交換を行い、避難民へのアンケートの実施と分析、公共政策の視点から関連行政等の機能に関する政策提言、諸外国のウクライナ避難民の動向等情報提供等を行いました。長期化する避難生活において経済的自立に向けた重点課題の整理やそのプロセスは、日本の難民施策、多文化共生施策にも関わる重要なテーマです。

5. 政策提言活動（フォーラム開催、報告会の実施等）

①フォーラムの開催（東京都主催）

「ウクライナ避難民支援連携フォーラム」：

第1回 2024年9月5日 第2回 2025年3月6日

②特別企画「戦禍を逃れて三年 ウクライナ避難者が自ら語る『いま』、『これから』」（日本YMCA同盟主催）

2025年2月22日実施

避難者・有識者・メディア等80人参加

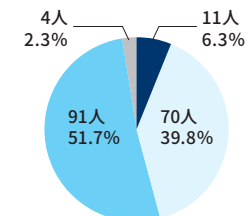
【アンケート調査】

1月実施のYMCA避難者現状調査結果から：

避難者の多くが受けている日本財団の経済支援はそのほとんどが2025年度中に終了。一方、戦争が終結しても「すぐに帰国する」という避難者はわずか6%と、9割以上の避難者が「日本での長期滞在や定住を希望する」という結果で今後も多様化する課題への支援が望まれます。

戦争が終了（停戦・休戦）した場合、どのような選択を希望しますか？

■ 速やかに帰国する
■ しばらくの間、状況を見る
■ 日本に残り、定住を試みる
■ その他



戸別訪問の様子



特別企画「避難者が自ら語る『いま』、『これから』」2/22



クリスマス人形劇「てぶくろ」上演・パーティ

能登半島地震／豪雨災害 復興支援活動

2024年1月1日に発生した能登半島地震のためYMCAは、1月8日～3月31日、内閣府および全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）からの要請を受け、要支援者のための「1.5次避難所」にスタッフを派遣。約20の専門団体が集まる中、アドバイザー役として運営体制を整備しました。

その後も輪島市町野町の避難所支援、9月の豪雨災害後のボランティア派遣など、年間を通じて支援活動を行いました。

輪島市町野町での避難所支援

輪島市の要請により、1月24日から町野町の避難所運営をサポート。6月30日まで約160日間、日々2～3人、延べ90人の駐在スタッフを派遣し、受付事務から清掃、物資の仕分けなど多岐にわたる作業を24時間体制で担いました。当初は約500人が避難していましたが、仮設住宅への移転が進んだことから、6月末日で派遣は終了しました。なお、1月～3月は東京YMCAが主管、4月～6月は富山YMCAが中心となり、全国協働で実施しました。



リフレッシュキャンプ

日にち：Ⅰ期 8月9～12日／Ⅱ期 8月18～20日

対 象：輪島市の小中学生

Ⅰ期 小3～中学生／Ⅱ期 小1～4 計26人参加

場 所：国立立山青少年自然の家(富山県)

被災地の子どもたちを対象にリフレッシュキャンプを実施。滋賀・富山・盛岡・茨城・横浜など全国から集まったボランティアリーダーたちが、事前にオンライン研修や打ち合わせを重ね、森探検や星座観察など楽しい活動を展開。子どもたちを励ました。中には震災後に転校した子どももいて、離れてしまった友だちとの再会を喜び合う姿も見られました。



ワイズメンズクラブ国際協会

YMCAと共に避難所の運営や募金活動、泥かき作業を担ったほか、定期的に被災地を訪問し、餅つきや歌の広場などを行っています。

◇餅つきと「わいわいcafé」

・5月2～3日／町野町の避難所および仮設住宅広場／訪問者12人

◇餅つきと歌の会

・12月27日～29日／町野町の仮設住宅／訪問者15人

◇歌声広場とわいわいcafé

・3月19日～20日／町野町の仮設住宅／訪問者5人



豪雨災害ボランティア派遣

9月21日、地震の爪痕が残る能登半島に大規模な豪雨が発生。「二重災害」と言われる惨事となりました。YMCAは再び輪島市町野町にスタッフ・ボランティアを派遣。町野町と南志見（なじみ）地区でボランティアコーディネートをしている「まちなじボラセン」と協働し、町内の学校や店舗、寺院、個人宅などあらゆる場所で泥かき作業をしました。

「地震では何とか使えた家具も、泥に浸って何一つ使えなくなってしまった」「また避難所で暮らすことになるとは思っていなかった」――。二度の災害による被災者の落胆は深刻で、YMCAのスタッフ・会員たちはその声を受け止めながら、床下の泥かきや清掃、家財搬出などを手伝いました。11月末までに11のYMCAから延べ245人を派遣しました。

◎期間：9月26日～11月30日

被災地との交流プログラム

町野町では災害後、小中学校が避難所となったため、子どもたちは隣町の学校に登校。転校する生徒も多く、遊び場もなくなるなど、子どもの生活も大きな影響を受けました。こうした被災児童を励まそうと、富山YMCAを中心に各種のリフレッシュプログラムを行いました。

◇デイキャンプ（カレーライス作り）

- ・6月2日／町野町の避難所（東陽中学校）
- ・参加者計14人（町野町の小中学生10人。富山YMCA中学生4人）＊途中からはご家族も参加。

60人分のカレーを作り、避難所の皆さんにもふるまいました。

◇デイキャンプ（ピザ作り）

- ・12月8日／町野町の公民館
- ・富山YMCAの小中学生6人が訪問。

◇1泊スキー

- ・2月23～24日／牛岳温泉スキー場（富山市）
- ・小中学生33人（輪島市の小学生6人含む）

大雪が心配されたにもかかわらず輪島市の小学生たちは、「富山YMCAの皆に会いたい」と、家族で富山市内に前泊して参加。共にスキーを楽しみました。



「熊本地震と熊本水害のお礼がしたい」と作業する熊本YMCA学院生



東京、滋賀、熊本YMCAのボランティアたち。約2カ月で11YMCAから245人が現地を訪れました



ブランディング推進協力

全国YMCA総主事会議を中心に各事業担当者会と連携し、全国協働、ブランディングを推進しています。総主事会議をはじめとした各事業担当者会の多くで年1～2回は対面形式での研修会や担当者会を行う一方で、オンラインを活用した役員会、意見交換会、打合せ等も多く開催され全国での情報や事例の共有がより積極的に行われました。2023年度新たに設置された各事業担当者会のリーダーが集う「会長連絡会議」の効果が表れ、さまざまな研修会では事業の枠を超え他事業のスタッフが多く参加するなど、全国での事業間協働が進んでいます。

ブランディング推進、広報活動

YMCAブランドが目指す価値や理念を内外に伝えるため、機関紙「The YMCA」を定期刊行し、メールマガジン「ポジティブネット通信」も毎月配信しました。今年は特に「世界YMCA Vision2030」の推進のため、ウェブサイト上に新規ページを設置したほか、海外の取り組みを国内に伝え、また「日本YMCA大会」等の報告を英訳して国外に発信するなど、国内外の情報窓口として、その推進に努めました。

総主事会議で導入が決定された「アルムナイ採用」は、タスクチームと共に運用ルールを検討するなどしてホームページを製作。2025年4月から運用開始しました。ユニフォームやノベルティグッズの制作・管理についても、全国YMCAと協力相談しながら、製品の改良等に取り組みました。

前年に続き、能登半島地震・豪雨災害やウクライナ避難者への支援をウェブサイト等で呼びかけたほか、ピンクシャツデーやウォーターセーフティーデーなど全国協働の取り組みも情報を集約・発信するなど、「連結ピン」としての働きを担いました。

○機関紙「The YMCA」

毎月1日／年10回発行。発行部数12,000部

○日本YMCA同盟メールマガジン

「ポジティブネット通信」：毎月10日前後配信

○ホームページ、SNS：随時更新

○日本YMCAカレンダー制作

○世界YMCA／YWCA合同祈禱週 冊子制作



「Y's×SDGs Youth Action2024」

ワイズメンズクラブ国際協会東西日本区とYMCAによる協働事業「Y's×SDGs Youth Action」は、SDGsに掲げられた地域課題の解決に向けたユースの活動を助成し、その地域のYMCAスタッフとワイズメンが活動に伴走する事業です。2022年度に始まり、2回目となった今年は、選考された10チームが5月～12月末までの8カ月間、各地域の課題解決に向けた活動を展開しました。YMCAユースリーダーらしい子どもたちの居場所事業のほか、災害復興支援や平和への取り組み、人権問題、まちづくりなど、多彩な活動が展開されました。

YMCAインターナショナル・チャリティーラン2024

2024年度は、全国19会場で実施されました。ランナー、スタッフ、ボランティア、応援を含め総参加者数は10,219人（昨年比：250人増）となりました。これにより収益は約1,750万円となり、チャリティーランを開催していない地域のYMCAも含め、約120のプログラムで2,800人あまりの障がいのある子どもたちのために活用されました。2024年度は新たな大会委員長に、東京2020パラリンピックとパリ2024パラリンピック競泳でメダルを獲得した富田宇宙選手が就任され、東京、横浜、大阪、神戸、熊本の5会場に参加いただきました。どの会場でもランナーとして走り、メダルを披露して、子どもたちとも気さくに交流されました。富田選手は幼少期に熊本YMCAの水泳クラスに所属、障がい者スポーツの普及にも熱心で2025年度も引き続き大会委員長として活動予定です。

ポジティブネット創造

韓国YMCA全国連盟・韓国大学YMCA全国連盟主催 第1回アジア太平洋クリスチャン・ユース・ アッセンブリー（韓国・済州島）

アジア太平洋諸国およびロシアなど13カ国から、キリスト教に関連する団体に所属するユース60人が9月4日～8日、韓国の済州島に集まり「第1回アジア太平洋クリスチャン・ユース・アッセンブリー」が開催されました。日本からは中央大学と立教大学の学生YMCAメンバー3人が参加しました。テーマは「平和と気候変動」で、グローバルな課題に対してリーダーシップを発揮できるユースを育てることを目的に実施されました。平和については、1948年に済州島で起きた島民大量虐殺事件（済州島4・3事件）の現場や記念館を訪れて歴史の学びを深め、平和の大切さを再確認しました。気候変動に関しては、ワークショップを通して気候変動対策の必要性や気候正義実現のために何を行うべきかといった内容への理解を深め、現地の市民が企画した環境保護や気候変動対策を求める街頭行進にも参加しました。

日韓YMCA連絡委員会（韓国・ソウル）

9月9日に日韓YMCA連絡委員会、9月10日に韓国YMCA全国連盟110周年記念式典が韓国・ソウルで開催されました。日本からは日本YMCA同盟山本俊正会長をはじめ、韓国とパートナーシップを持つ加盟YMCAの総主事、スタッフ15人が訪韓しました。連絡委員会はコロナ禍を経て5年ぶりに対面で開催され、韓国の仲間たちとの再会を喜び、これを機に交流再開を目指すという方向性を確認しました。

韓国YMCA連盟結成110周年記念式には、中国やロシアなど海外YMCAからも多数が出席。席上で山本会長は、日韓の歴史への思いと日本YMCA基本原則にもある歴史認識にふ

れた祝辞を述べ、多くの参加者から賞賛を受けました。日本の植民地政策や加害の歴史に翻弄され、傷つけられてきた韓国の歴史について、改めて学ぶ機会となりました。

YMCAアクセラレーター・サミット2024 （ケニア・モンバサ）

10月21～25日、世界YMCA主催「YMCAアクセラレーター・サミット2024」がケニア第二の都市であるモンバサで開催されました。各国のYMCAに連なる約400人のほか、関連団体や企業、行政などパートナー団体の代表が参加し、「世界YMCA Vision2030」の展開をさらに加速させていく（＝アクセラレーター）ために学び、対話を繰り返しました。日本からは世界YMCAチェンジ・エージェントとして1年半活動したユース世代のスタッフ2人と、ユースボランティアリーダー、シニアスタッフの4人が参加。世界120の国と地域のYMCAが共通のビジョンに向かって、高い熱量を持って社会をよりよくしようと歩んでいることを確認してきました。

日台YMCA連絡委員会（日本・東京）

12月2～4日、台湾YMCAの総主事、スタッフ13人が来日し、東京YMCAを会場に日台YMCAの交流活性化に向けて協議しました。日本と台湾YMCAとの関わりは深く、水泳や健康教育、高齢者事業などにおける協働や、日本語教師の派遣、留学生の合同募集、台湾からのキャンプリーダーの受け入れ（ICCPJ）など多岐にわたります。今回の委員会では、2025年度ICCPJの実施、台湾での日本語学校合同説明会の継続のほか、新規プログラムとして、日本のユース（大学生）の台湾キャンプへの派遣（ICCPJ）の推進が確認されました。



アジア太平洋クリスチャン・ユース・アッセンブリー



YMCAアクセラレーター・サミット2024

学生YMCA

2024年度の学生YMCAでは国際プログラムである日韓学生YMCA交流プログラムが復活するなど、また一つ、コロナ禍からの回復を示す実績を残すことができました。また、第50回となる全国学生YMCA夏期ゼミナールに学生数と同数の学生YMCAシニア(OB/OG)が集結するなど、現役学生の活動でありながら、卒業後もYMCA運動にそれぞれの方法で関わり続けているシニアの活動でもあるという学生YMCAの姿が改めて確認された1年でもありました。

第50回全国学生YMCA夏期ゼミナール

第50回の節目を迎えた今回の「全国学生YMCA夏期ゼミナール」では、テーマを「小さな私、弱いあなた～暴力と戦争の世界を生きのびるために」とし、9月13日～15日の3日間、YMCA東山荘に現役学生18人を含み、学Yシニア、講師、スタッフなど総勢50人が集って、本気で語り合う充実した時をともに過ごしました。特に学Yシニアからは20代～70代と全ての世代が集結し、シニアの中でも世代間交流を実現することができました。

今も世界には戦争・紛争で傷つき、命を落とす子どもたち、戦闘に駆り出される若者たちがいる一方、“平和”と言われる日本社会でも、学校や教育現場での熾烈な競争やいじめ、若年層の自死と言った“暴力”があふれています。

こうした状況を「大きくて強い」ではなく「小さくて弱い」立場の視点から、世界に希望と変化を導き出すことができるのではないかと、しばし立ち止まって学Yの視点で考えてみようとする学Yシニアを各プログラムの講師としてお招きし、現役学生とともに思う存分、語りあい、学びあう時を持ちました。



学生による自主ゼミナール

第22回全国学生YMCA日韓交流プログラム

8月2日から5日にかけて大阪を舞台に「第22回全国学生YMCA日韓交流プログラム」が開催されました。1991年から不定期に開催されてきた学生YMCA日韓交流プログラムは新型コロナウイルスによるパンデミック下でのオンライン開催と少人数での準備会議を挟み、ようやく対面開催での再開が叶ったのが、今回となります。

2024年1月に発生した能登半島地震の影響などから、恒例の2月開催を8月に時期変更し、真夏の大阪で開催された今回では、日本側の学生たちが考えた「知ることからはじめよう、隣どうしの私たち。」というテーマを設定しました。日本の学生YMCAから8人、韓国の大学YMCA13人の大学生が参加し、大阪国際ユースホステルと大阪コリアタウンを舞台に自分のこと、相手のことについて考えたり、在日コリアンの歴史や現状を学んだりしながら、お互いの思いを確認しあい、理解しあうための4日間を共に過ごしました。



聖書研究ディスカッション

日本YMCA研究所

全国のYMCAスタッフ延べ1,620人に、YMCAスタッフとしての学びの機会を届けました。全国YMCAオンライン研修プラットフォームの開始により、1,500人を超えるスタッフが自己研鑽の機会を得ることができました。専門職管理者研修では高い専門性を持つスタッフを対象に、YMCA運動の担い手としての資質を高める研修を実施しました。日本YMCAスタッフ研修ステップⅡの宿泊型フィールドトリップでは能登半島地震・豪雨災害の被災地を訪問し、二重災害といわれた被災地の厳しさを直視する機会となりました。日本YMCAスタッフ研修ステップⅢは3年ぶりに対面で開講し、各YMCAのトップリーダーシップを担うスタッフを対象に学びの機会を提供することができました。

日本YMCA主事資格審査では、新たに9人が日本YMCA主事認証を受け、本制度が始まった1951年以降の累計主事数は、総勢633人となりました。

研修

専門職管理者研修

日 程：7月15日～19日（4泊5日）

場 所：YMCA東山荘

研修生：9YMCAより16人

伊藤朋子（仙台）、石川麻衣（仙台）、菅原園絵（仙台）、
松本しのぶ（とちぎ）、清信愛美（東京）、野澤晴彦（東京）、
高橋彩子（東京）、奥美央（東京）、賀澤順子（横浜）、
佐藤智保（横浜）、竹田誠（富山）、西山由衣（奈良）、
上村五月（大阪）、平良勇人（大阪）、石田詩織（神戸）、
西本愛（熊本）

主なカリキュラム：人間関係トレーニング、YMCAの福祉とブランディング、YMCAとキリスト教、福祉社会とYMCA、専門職としての人材管理と育成、フィールドトリップ

日本YMCAスタッフ研修ステップⅡ

期 間：9月26日～11月29日（65日間）

場 所：YMCA東山荘／日本YMCA同盟／オンライン

研究生：9YMCAより15人

中村渉（盛岡）、小幡忠弘（仙台）、安保伸江（東京）、
クリストファー・ホーランド（東京）、藤澤幸隆（横浜）、
柳原絵里子（横浜）、広瀬謙一（名古屋）、中島茜（大阪）、
池田博人（大阪）、北野瑞季（大阪）、榊井智之（大阪）、
水野宏明（神戸）、岡田敏揮（広島）、宮本昌宣（熊本）、
兼瀬稔宜（熊本）

カリキュラム：

1. YMCAの使命と証としてのキリスト教基盤 6講座
2. 社会・地域の課題への責任的な対応 14講座
3. 組織理解と運営能力 8講座

4. 自己・他者理解と自己啓発 2講座

5. その他（特別講義・他団体訪問） 3講座

日本YMCAスタッフ研修ステップⅢ

期 間：2025年1月7日～11日（4泊5日）

場 所：YMCA東山荘

研究生：7YMCAより10人

伊藤信彦（茨城）、小畑貴裕（東京）、岡田ナスカ（東京）、
石川晴美（横浜）、阿部正伴（横浜）、菅秀晃（大阪）、
宮原学（大阪）、小寺隆志（神戸）、大久保和生（熊本）、
伊藤眞太郎（熊本）

カリキュラム：

- ・日本YMCAのブランディングとミッション
- ・非営利組織のマネージメント
～トップリーダーに必要な経営の視点
- ・説教演習
- ・ソーシャルビジネスの視点からのYMCA事業運営について



日本YMCA研究所

主事資格審査

2024年6月1日付認証者・論文テーマ

平山雄大(とちぎYMCA)

とちぎYMCAが公益性を持って体験活動を展開していく方法の提案

古市健(東京YMCA)

協働事業におけるYMCA運動成立の構造分析

—YMCA×企業×行政によるPFI施設が果たすYMCA運動—

遠藤恵美子(名古屋YMCA)

個人・グループのユース・エンパワメントのための要素の考察

小島英恵(大阪YMCA)

大阪YMCAの保育事業の展望 ～あわぎ保育園の挑戦～

小西雄希(大阪YMCA)

指定公立国際教育学校において国際理解教育をどのように推進するのか～水都国際中学校・高等学校の運営を例に

清家球平(大阪YMCA)

キリスト教介護の目指す社会 ～青少年の希望ある未来のために～

菅秀晃(大阪YMCA)

「共創によるYMCA活動の発展と社会的影響に関する研究」

市川愛(YMCAせとうち)

ポジティブネットのある「森のようちえん」事業の展開

～YMCAせとうちにおける森のようちえん10年間の歩みからの考察～

有安紀(YMCAせとうち)

Youth must go onするために、YMCAができること



全国YMCAオンライン研修プラットフォーム

全国YMCAで課題となっている人材養成に関して、「研修制度の拡充及び採用機会の拡大タスク(担当総主事:大阪YMCA小川健一郎総主事、横浜YMCA佐竹博総主事)」を2023年10月に設置し、2024年2月の全国YMCA総主事会議での決議を経て、全国のスタッフ育成の機会として新たに「全国YMCAオンライン研修プラットフォーム」を開設した。開設初年度は1,574人が登録、ベーシックコースを開講した。

【開設講座：ベーシックコース】

■YMCA理解Ⅰ(15講座)

YMCA総合理解・YMCAの世界観・YMCAで働くこと・社会・地域とYMCAの働き

■YMCAとキリスト教(4講座)

YMCAとキリスト教・キリスト教基礎理解・キリスト教と社会・聖書のメッセージを語る

■YMCA理解Ⅱ(2講座)

会員組織としてのYMCA—使命の実現の視点から・ワイズメンズクラブ国際協会

■世界YMCA Vision2030(8講座)

世界YMCA Vision2030とは・世界YMCA Vision2030が採択された経緯・運動を広げる4つの柱・私たちの活動とのつながりを考える

■YMCAブランド(3講座)

はじめに・YMCAブランドとは(入門編)・ブランドの表出(広報の基本)

■人権について(6講座)

人権をめぐるワークショップ・子どもの人権・障がい者の人権・高齢者の人権・女性の人権・マイノリティの人権

国際青少年センター YMCA 東山荘

年間概要

経済的基盤の再生と老朽化した施設のリニューアルを掲げて歩んだ一年でした。利用者数は、2023度は目標26,000人に対し28,962人が利用、2024年度は目標を29,000人としたところ30,027人が利用されました。主に学校や企業の利用が増えたため、春から秋にかけては毎週、学校の方々が来荘され、賑やかな声が東山荘に響きました。12月から約3カ月間にわたる6号館改修工事期間中も、例年以上にご利用いただけたことは嬉しいことでした。

地域とのつながりは御殿場・小山フードバンク活動への協力、海外にルーツのある児童・生徒への野外活動の提供、ワイズメンズクラブほか関係団体との地域活動などを実施しました。それらの活動を通し、地域の学校の同窓会や研修会など、市民のご利用が増えました。来荘された方たちとの関係を大切にできたことが、多くの方たちのご利用につながってきました。

持続可能な地球環境への取り組みとして2021年度より再生可能エネルギーに切り替え、太陽光発電パネルも設置しました。今年は国の補助金を利用し電気自動車への充電設備（EVチャージャー）をロτζ前に設置し、4台まで充電できるようになりました。本館1階には新しくウォータースタンドを設置し、東山荘の美味しい水を飲んでいただけるようになりました。今後もウォータースタンドの増設を検討するなど、未来に向けて環境にやさしい施設作りを計画しています。

2024年1月1日に発生した能登半島地震は、東山荘恒例の年末年始プログラムの最中で、参加者は驚きを持ってニュースを聴き、被災された方たちの無事を祈りました。困難の中にある人たちと共に歩もうと、その後、職員を派遣し、日本YMCA大会では被災地物品販売を行うなど、被災地を支援しました。



改修工事

1982年竣工の6号館は、2段ベッドの客室に広いサイドルームがついた宿泊棟で、多くの学校・団体が利用されてきました。しかし築43年を経て外壁、水回り、電気系統に課題が生じていたことから今年、改修工事を行いました。利用者が少ない冬期に約3カ月間、全面的な改修を行い新たな6号館として生まれ変わることができました。電気容量を増やし、水回りの設備も最新にするなど、利便性を高めるとともに、外壁はライトグレー、ベランダの柵はブラウンに一新し、新築のようなとの評価をいただいています。YMCAブランドカラーを生かし各階のドアや内装等を色分けしたことも好評で、「明るくなった」「部屋の確認ができる」等の声もいただいています。

同時期に黙想館の改修工事も行ないました。善意ある方から寄せられた募金によって、室内改修、屋根防水修繕等を実現することができました。今後も“歴史を感じる清潔な施設”として皆様に愛される東山荘を心掛けてまいります。

ネイチャープログラム

毎年、多くの方が参加されるネイチャープログラムは今年度も盛況でした。64の学校・団体から延13,001人が参加され、前年比2%増加となりました。企業は11社、延べ921人が参加し、前年比約3倍となりました。ウォータースライダーや富士登山などの主催プログラムには延べ384人が参加しました。

ネイチャープログラムは“どんな天気も良い天気”をモットーに活動しています。否定的な言動を慎み、何事にも前向きな姿勢で取り組むことを大切にしようとするものです。これは日常生活全般にも通じる事であり、何事にも積極的に取り組む心構えを育むことにもなります。東山荘はこの気持ちを大切にしていきます。



寄附・支援

ポジティブネットYMCA国際協力募金

「子どもが、未来を創る。」をテーマに、全国のYMCAで募金活動を行いました。事務局ではポスターやリーフレット等を作成して、YMCAに連なる一人ひとりが変化の担い手として、考え、行動につなげられるよう働きかけました。寄せられた募金は世界の子どもや青年が、自分らしく過ごして遊び、学び、社会の変革や平和を創る担い手として成長するためのプログラム等に用いられました。

(円)

収 入	
前年度繰越	4,596,053
2023年度国際協力募金	4,280,758
2024年度ツール分担金	240,932
収入合計	9,117,743
支 出	
青少年育成・貧困者支援 (カンボジア、モンゴル、東ティモール)	2,225,100
ユース育成 (クリスチャン・ユースアッセンブリー、 アクセラレーターサミット参加費補助)	350,844
ノーベル平和賞授賞式参加費	200,000
啓発・広報(リーフレット・ポスター作製)	1,211,298
事務費	250,432
支出合計	4,237,674
次期繰越	4,880,069

＊上記は、日本YMCA同盟を通じた支援活動の収支報告です。

海外被災地・政変等支援(指定募金)

2023年10月7日以来、イスラエル軍によるパレスチナ・ガザ地区への激しい攻撃が続き、市民の避難所となっていたガザYMCAも爆撃されるなど、深刻な人道危機が広がっています。昨年に続き日本のYMCAは、パレスチナ緊急支援募金を全国に呼びかけ、緊急支援金を送りました。

また2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻も収束を迎えることなく、YMCAは2024年度も引き続き、避難者への人道支援を継続しました(詳細は6、7ページ)

(円)

収 入	
前年度繰越	41,277,446
指定募金	8,836,695
収入合計	50,114,141
支 出	
ウクライナ	8,928,167
パレスチナ緊急支援	3,000,000
オリーブの木キャンペーン	71,000
台湾東部沖地震支援	620,592
支出合計	12,619,759
次期繰越	37,494,382
ウクライナ	35,174,278
パレスチナ	1,177,462
トルコ・シリア	613,790
フィリピン	528,852



2024年度募金リーフレット



能登半島地震 支援活動

2024年1月1日に発生した能登半島地震後、YMCAは約半年間にわたって避難所の運営等をサポートしました。8月にはリフレッシュキャンプを実施して復興を応援しましたが、同地区で9月21日、豪雨が発生。「二重災害」と言われる甚大な被害となったためYMCAは、再度ボランティアを派遣し、泥かき作業などを担いました。（詳細は8、9ページ）

(円)

収 入	
前年度繰越	18,508,863
日本YMCA同盟受	26,115,852
収入合計	44,624,715
支 出	
輪島市町野町避難所支援	
豪雨災害ボランティア派遣	
富山YMCAによる避難者支援活動（リフレッシュキャンプ他）	
各YMCAによる支援活動	
支出合計	22,592,274
次期繰越	22,032,441

障がい児支援

全国のYMCAでは、障がいのある子どもたちのキャンプ、水泳、体操のほか、学習支援事業や放課後等デイサービスなど約400の特別支援プログラムを実施しており、3,700人余りが参加しています。

いずれのプログラムも参加者一人ひとりの特性に対応するため多数のボランティアを配置し、またその成長に資するよう遠足などイベントも企画して、質の高い活動を提供しています。

これらの活動のため、今年も多くの企業・団体が主旨に賛同くださり、ご寄附および物品の寄贈などさまざまな形で支援くださいました。特に、YMCAインターナショナル・チャリティーラン（＝10ページ）は全国19のYMCAで開催され、約1万人が参加。各地域の行政やメディアも後援くださり、益金約1,750万円を活動に充当することができました。



パレスチナの平和のために

2023年10月7日から一年半。イスラエルによるパレスチナ・ガザ地区への攻撃はやまず、犠牲者数は5万人を越えました。平和への糸口は見えず、世界は成すすべもないままその惨状を見続けています。

現地では、ガザYMCAが2023年12月に爆撃で破壊され、2024年度はヨルダン川西岸地区の東エルサレムYMCAが中心となって、負傷者へのリハビリや職業訓練、トラウマを抱えた子どもたちの支援にあたっています。

日本のYMCAは1990年代から交流を続けてきましたが、現在ワークキャンプ等は休止。募金によって東エルサレムYMCAを支援しているほか、YWCAと共に「オリーブの木キャンペーン」を行い、占領下で破壊されたオリーブ畑を再生して暮らしを支えようと取り組んでいます。

5月9日と10月31日には、「平和を願うYMCAオンライン祈祷会～パレスチナのために、世界のために～」を開催。各100人余が参加しました。また機関紙「TheYMCA」7/8月号には、東エルサレムYMCAのピーター・ナシル総主事のメッセージを掲載し、現地の状況を共有しました。

攻撃から一年となった10月には、国内NGOによる共同声明「停戦を、今すぐに。」が発出され、日本YMCA同盟もこれに賛同。世界YMCAからも「あらゆる暴力を否定し、人命を守ることを求めます」との声明が出されました。



寄附・支援

ワイズメンズクラブ国際協会

国際的奉仕団体であるワイズメンズクラブは現在、東日本区・西日本区を合わせて124クラブあり、約1,900人のメンバーが各地のYMCAと共に地域活動を行っています。2024年度には、東西日本区とYMCAによる協働事業「Y's×SDGs Youth Action2024」が実施され、SDGsに掲げられた社会課題に取り組むユースグループを、各地域のワイズメンズクラブとYMCAがサポートしました。

地震と水害の二重災害に見舞われた能登半島の復興支援活動では、YMCAと共に避難所の運営や水害後の泥かき作業、募金活動を担い、その後も餅つきや歌の広場活動が続けるなど、被災地に寄り添った活動を展開しています。

また、YMCAの学生リーダーや海外プログラムにも変わらぬご支援とご協力をいただきました。

(円)	
収 入	
ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区	620,000
ワイズメンズクラブ国際協会 西日本区	1,000,000
収入合計	1,620,000
支 出	
第55回全国YMCAリーダー研修会	400,000
第23回日本YMCA大会	620,000
日韓交流会	200,000
第50回学生YMCA夏期ゼミナール	200,000
アクセラレーターサミット	200,000
支出合計	1,620,000



日本宝くじ協会

一般財団法人日本宝くじ協会から総額891万円の助成を受け、集会用テントを16YMCAに41張、宿泊用テントを10YMCAに20張、合計61張が新たに全国のYMCAに配備されました。助成されたテントは、保育施設やランチでのイベント、野外教育活動など、さまざまな場で用いられ、17,000人以上が利用しました。

テントは、YMCAが大切にしている“人と人とのつながり”が生まれる場を、立地を選ばずに用意できるアイテムとして大変重宝されています。同時に、宝くじ協会やYMCAのロゴマークが表示されたテントに地域の方々が集うことは、ブランディング効果もあり、ポジティブネットを拡げる機会にもなりました。

(円)	
収 入	
助成金収入(本体事業費)	8,100,000
助成金収入(消費税分)	810,000
自己財源収入	1,024,000
収入合計	9,934,100
支 出	
集会用テント 41張	5,988,000
宿泊用テント 20張	3,043,000
消費税	903,100
支出合計	9,934,100

YMCAユースファンド

「YMCA地球市民プロジェクト」を通してのユース育成は、コロナ禍の影響もあり、ここ5年間休止しています。ユース育成をお支えくださる支援が活かせるよう、今後のユース育成のありようを検討してまいります。

日本YMCA同盟委員会報告

委員任期：2024年7月～2026年6月 ◎は長を示します

1. 理事会・評議員会・常議員会・協議会

法人理事会

▼第374回（2024年5月13日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2023年度日本YMCA同盟事業報告の件
- ・2023年度日本YMCA同盟決算報告の件
- ・第34回同盟通常評議員会の議案・日程の件 他

▼第375回（2024年6月15日）集合（東山荘）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・代表理事・執行理事選定の件
- ・同盟各種委員会委員委嘱の件 他

▼第376回（2024年10月12日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・上半期事業報告および予算執行状況報告の件
- ・同盟常置定例委員会委員委嘱の件 他

▼第377回＜臨時＞（2024年10月28日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・日本YMCA同盟振興資金の件

▼第378回（2025年1月18日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2025年度日本YMCA同盟方針・計画・骨子の件
- ・2025年度日本YMCA同盟予算編成方針の件
- ・第23回日本YMCA大会実施報告の件
- ・第35回評議員会の日程・議案の件 他

▼第379回（2025年3月1日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2025年度日本YMCA同盟方針・計画の件
- ・2025年度日本YMCA同盟予算案の件
- ・次期同盟総主事候補推薦委員会の件
- ・同盟負担金制度検討委員会設置の件 他

▼第380回（2025年3月22日）オンライン会議

- ・次期日本YMCA同盟総主事候補推薦委員会委員委嘱の件
- ・同盟負担金制度検討委員会設置及び委員委嘱の件
- ・日本YMCA同盟振興資金の件 他

理事（7名）

仲井間健太、中道基夫、水田秀子、中村隆、
田口努（代表理事）、横山由利亜（執行理事）、
森田義彦（執行理事）

監事（2名）

川本龍資、齋藤宙也

法人評議員会

▼第34回通常評議員会（2024年6月15日）集合（YMCA東山荘）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2023年度日本YMCA同盟事業報告の件
- ・2023年度日本YMCA同盟決算報告の件
- ・日本YMCA同盟次期役員・評議員選任の件
- ・日本YMCA同盟次期代議員（2024-2026）選任の件 他

▼第35回臨時評議員会（2025年3月22日）オンライン会議

- ・2025年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件
- ・2025年度日本YMCA同盟予算案の件

評議員（12名）

◎山本俊正、上田晶平、奇恵英、利根川恵子、新林智子、
長谷川洋一、北條将人、山田拓路、山本知恵、吉岡路乃、
黄崇子、中田純子

同盟常議員会

▼第390回（2024年5月18日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2023年度日本YMCA同盟事業報告の件
- ・2023年度日本YMCA同盟決算報告の件
- ・第13回同盟協議会の件 他

▼第391回（2024年6月15日）集合（東山荘）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・日本YMCA同盟次期役員・評議員選任の件
- ・日本YMCA同盟次期代議員（2024-2026）選任の件
- ・同盟各種委員会委員委嘱の件 他

▼第392回（2024年10月12日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・上半期事業報告および予算執行状況報告の件
- ・同盟常置定例委員会委員委嘱の件 他

▼第393回（2025年1月18日）集合（同盟）・オンライン（ハイブリッド）会議

- ・2025年度日本YMCA同盟方針・計画・骨子の件
- ・2025年度日本YMCA同盟予算編成方針の件
- ・第23回日本YMCA大会実施報告の件

▼第394回（2025年3月22日）オンライン会議

- ・次期日本YMCA同盟総主事候補推薦委員会委員委嘱の件
- ・同盟負担金制度検討委員会設置及び委員委嘱の件
- ・日本YMCA同盟振興資金の件
- ・第14回同盟協議会開催の件 他

日本YMCA同盟委員会報告

常議員 (22名)

◎ 山本俊正、仲井間健太、中道基夫、水田秀子、上田晶平、奇恵英、利根川恵子、新林智子、長谷川洋一、平野昭宏、廣瀬頼子、廣田康人、北條将人、村田堅太郎、山路はるか、山田拓路、山本知恵、吉岡落乃、黄崇子、中村隆、中田純子、田口努

同盟協議会

▼2024年6月15日～6月16日

場所：国際青少年センター YMCA東山荘 集合およびオンライン (ハイブリッド形式)

協議会I

第1号議案 2023年度日本YMCA同盟事業報告の件／2023年度決算報告の件

第2号議案 2024年度日本YMCA同盟事業方針・計画の件／2024年度予算の件

第3号議案 次期同盟常議員候補者選出の件／第14回日本YMCA同盟協議会日程案の件

協議会II

■ブランディングプロジェクトから日本YMCA中期計画、そして「世界YMCA Vision2030」へ
リソースパーソン：中道基夫／仲井間健太 (日本YMCA同盟常議員)

協議会III

■ウクライナ避難民支援活動の現状と今後
■能登半島地震支援活動の現状と今後

協議会IV

■「世界YMCA Vision2030」4つの柱と私たちの活動
リソースパーソン：青山鉄兵／仲井間健太 (日本YMCA同盟常議員)

協議会V

■主事認定証授与式
聖日 (派遣) 礼拝
メッセージ：山本俊正牧師 (日本YMCA同盟常議員)
奏楽：佐藤真也 (YMCAせとうち理事)

2. 運営委員会

YMCA東山荘運営委員会

開催日：第1回 (10月5日) オンライン会議、

第2回 (12月7日) YMCA東山荘にて開催

YMCA東山荘のさまざまな課題・状況を協議しました。コロナ禍で落ち込んでいた利用者数は今年、順調に回復してきましたが、今後のさらなる利用者増に向けて話し合いました。特に首都圏における幼少人口の減少は、今後の野外プログラムにとって大きな影響があると推測され、東山荘も近い将来には対象者層の拡大を図る必要があることが指摘されました。

また6号館改修工事に関しては実際に宿舍を点検し、老朽化した部分を確認し、改修計画の確認・協議を行いました。

運営委員 (6名)

◎村田堅太郎、野々垣健五、伊藤幾夫、田原績、佐藤恵子、小野実

退職金中央基金・職員年金基金運営委員会

開催日：5月22日、9月20日、10月30日、12月23日、3月12日

全国YMCAの退職金制度を維持し、退職職員への年金の安定的な供給のため資金運用状況の確認、抜本的な制度の検討を行ってきました。2024年度は1月の同盟常議員会にて基金の現状を報告、説明を行いました。

委員 (7名)

◎上田晶平、高田一彦、田中博之、山添仰、熊本哲朗、小幡忠弘、田口努

退職金中央基金・職員年金基金運用委員会 (6名)

◎上田晶平、勝田正佳、久保田貞視、齋藤金義、田中博之、山添仰

学生部委員会

開催日：12月1日、2025年1月27日

第1回は数年ぶりの対面開催として神戸学生青年センターに学生部委員に加えて関西地区学Yより京都大学YMCA、神戸女学院大学YMCAなどから現役学生も陪席として集いました。第50回夏期ゼミナール、第22回日韓交流プログラムへの評価などに加え、それぞれのYMCA活動、ボランティア活動などに関する意見を交換、確認しました。第2回では次回第51回夏期ゼミナール準備検討などに加え、「みらいの学Yプロ

ジェクト」の一環として、学Yリユニオン2025、学Y寮のためのオンライン寄付システム開発などに関する報告、意見交換がなされました。

委員（6名）

秋葉聡志、板野靖雄、黄崇子、仲井間健太、新林智子、村瀬義史

国内協力委員会

開催日：10月26日（電磁的）、11月20日、2025年3月18日

社会貢献団体としての側面と法人運営（ガバナンス・財政）の側面から、各地域に必要とされるYMCAであり続けるための意見交換を継続しています。特に総主事やスタッフレスの、運営の厳しいYMCAの状況を共有し、訪問だけでない新たなアプローチの必要性も検討しています。振興資金について、北海道YMCA（施設拡充・緊急支援／30,000千円）、滋賀YMCA（緊急支援／10,000千円）へ新たに貸付を決定しました。

委員（8名）

鷹箸孝、小林正光、水田秀子、川本龍資、廣田康人、菅谷淳、中村隆、福山武志

国際協力委員会

開催日：6月28日

ウクライナ避難者、パレスチナ、ミャンマーの各支援に関する情報の共有、第21回アジア・太平洋YMCA大会及び関連会議報告、世界YMCA同盟チェンジ・エージェント派遣についての報告と今後の協議、YMCAポジティブネット国際協力募金の2023年度報告と2024年度使途計画が承認されました。

委員

（2024年6月末日まで）◎岡戸良子、長尾ひろみ、太田直宏、上村香野子

（2024年7月より）◎利根川恵子、山田拓路、伊藤容子、太田直宏、上村香野子、渡邊裕子

加盟退除・組織検討委員会

開催日：2025年1月15日、2月28日

加盟YMCAから会則の変更案が申請されたため、2度の委員会を開催し、設置法人と任意団体（青年会）との関係性などについて慎重に検討を行った。

委員（5名）

◎北條将人、笈川光郎、古田和彦、小川健一郎、中田純子

研究所委員会

開催日：5月10日

変化し続ける現代社会におけるYMCAのスタッフ像を明らかにし、社会課題に素早く適切に対応でき、日本のYMCA運動をリードできる力を備えたスタッフ養成を目指して実施した、研究所主催研修の2023年度報告、2024年度計画、全国YMCAオンラインプラットフォームの開講、2023年度主事認証者の承認を行いました。

委員（5名）

◎山本俊正、秋元みどり、秋葉聡志、星野太郎、杉村徹

4. 特別委員会

主事資格認定委員会

開催日：4月25日

日本YMCA主事資格の認定を行うための口頭試問と認定委員会を開催しました。

委員（5名）

（2024年6月末日まで）◎秋葉聡志、山添仰、佐竹博、

加藤俊明、鍛治田千文

（2024年7月より）◎秋葉聡志、山添仰、齊藤希世、佐竹博、

鍛治田千文

主事論文審査委員（10名）

（2024年6月末日まで）松岡信之、湯本浩之、青山鉄兵、

秋元みどり、村田堅太郎、濱塚有史、齊藤希世、上村香野子、久保田展史、加志勉

（2024年7月より）中村陽一、青山鉄兵、秋元みどり、

村田堅太郎、河合将生、濱塚有史、上村香野子、久保田展史、加志勉、本田奈緒子

日本YMCA大会

「世界YMCA Vision2030」へ 全国の会員300人が語り合う



「第23回日本YMCA大会」を11月15日～17日、「YMCA東山荘」で開催し、全国からオンライン参加者100人を含む約300人が参加しました。

今年の大会テーマは「Link! ～[私]、YMCA、世界、そして未来～」。世界中のYMCAの共通目標である「Vision2030」に向けて、日本のYMCAはどう取り組んでいくか。国内外のYMCAと「Link」しながら、2030年のあるべき姿について考えました。

大会1日目は、10月にケニアで開催された「世界YMCAアクセラレーター・サミット」の報告と合わせ、バングラデシュ、シンガポール、マダガスカルともオンラインでつなぎ、各国における「Vision2030」の進捗を共有しました。また「持続

可能な地球」への取り組みを強化するため、再生可能エネルギーの導入をよびかけている認定NPO法人FoE Japanの吉田明子さんと、UP DATER（みんな電力）の真野秀太さんから、エネルギー施策などを学びました。

2日目には、全国のプロプログラム自慢大会を実施。参加者投票によって、盛岡YMCAの「岩手県の小学校からいじめをなくす“子どもの人権プロジェクト”」がグランプリを受賞しました。

また今回は、日本で避難生活を送るウクライナのユースも参加。キャンプファイアなどを共に楽しむとともに、「戦争は人の生活も環境も破壊するだけ」と訴えました。

ノーベル平和賞受賞「日本被団協」とYMCA

1956年に広島YMCAの講堂で設立され、共に平和運動を推進してきた日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）が10月11日、2024年のノーベル平和賞を受賞しました。

YMCAは長年の関わりから、受賞に貢献した団体の一つとして12月、ノルウェーのオスロで開催された授賞式に同行することになり、広島YMCAスタッフの中奥岳生さんを派遣しました。

オスロには、千葉YMCA会員で千葉県の被爆者団体で活動している青木清子さんも、夫で千葉YMCA理事の青木一茂さんと共に同行。代表者らと共に「ノーモア・ヒロシマ、

ノーモア・ナガサキ」と書かれた横断幕を掲げて平和パレードを行いました。各地で紛争が続き、核の脅威が現実的とな

る中での受賞にYMCAは、被爆者たちが身を削りながら訴えてきた思いを無駄にすることのないよう、これからも平和への活動を続けていこうと決意を新たにしました。



全国YMCA総主事会議関連報告

全国YMCA総主事会議

会 長：中村隆

副会長：佐竹博、中田純子

開催日：3月18日、6月14日～15日、10月8日～10日、
2025年2月4日～6日

総主事会議を牽引する役員会を中心に東日本、中日本、西日本地区の総主事会議とも連携する体制のもと、新たに広島YMCAの家守治司総主事を迎え、2023年度末にオンラインにてキックオフ総主事会議を実施。6月の会場はYMCA東山荘、10月は京都YMCA、2月には広島YMCAでの開催となりました。いずれも対面で実施し、総主事間のコミュニケーションや情報交換、課題共有を積極的に進めました。また、総主事自らが社会情勢を見極め必要な学びを深めるために、10月には進化するAI技術について学び、2月にはノーベル平和賞を受賞され、広島YMCAとも関係の深い広島県原爆被害者団体協議会理事長の佐久間邦彦氏を迎え、改めて平和への取り組みの重要性を学びました。また前年度から取り組んだ人材育成のための研修制度（全国YMCAオンライン研修プラットフォーム）の運用を開始。同時に全国協働での新たなスタッフ採用制度（アルムナイ採用）の準備を進め2025年4月より運用を開始します。2024年度から2025年度にかけて複数のYMCAで総主事の交代があることを見据え、経験豊富な総主事が新任総主事のYMCAやガバナンス等の課題のあるYMCAを訪問する取り組みの検討を始めました。

全国YMCA戦略会議

開催日：5月19日（対面）、7月23日、9月5日、2025年1月21日

5月にコロナ以降初となる対面での会議を実施しました。事業規模の大きなYMCA（東京、横浜、神戸、大阪、広島、熊本）の総主事と総主事会議役員会で構成、YMCAのもつさまざまな課題を捉え、進むべき方向性、対応策を見出し、総主事会議に向けて全国YMCAが一体となって取り組むために議論を重ねました。また総主事会議での学びのテーマ設定や準備も戦略会議が行いました。このほか戦略会議が中心となり進めたタスクは以下のとおりです。

- ・経営タスク
- ・研修制度の拡充及び採用機会の拡大タスク

会長連絡会議

開催日：6月16日～17日

各事業担当者の会長の集い、事業領域を越えた協働を図ろうと2023年度にスタートした会長連絡会議。2024年度は個々のプログラム情報などを会長間で共有することが積極的に行われ、実際に他のYMCAでの好例を取り入れて実施するケースが増えています。また子育て・子育て事業部門（発達支援・教育保育・アフタースクール）で複数回、会長が集って協議が行われ、それぞれの研修会を他事業部にも公開し、事業領域を越えて学びあう取り組みも行われました。

全国担当者会

■子育て子育て事業部門

教育・保育担当者会

会長：齊藤希世 担当総主事：加藤雄一

現在、全国75拠点で保育園・幼稚園・こども園などを運営しており、約6,400人の園児が在籍しています。2024年度も引き続き、一人ひとりに寄り添い、イエス・キリストの愛と奉仕の精神に基づく保育を実践しています。10月には実に5年ぶりとなる、保育士および教員を対象とした対面研修会を宮城県石巻にて実施。「いのちの大切さを知る」をテーマに、東日本大震災の震災遺構をめぐりながら、子どもの命を守るための学びを深めました。1月に横浜YMCAで開催された管理職対象研修では、山梨県にある聖愛幼稚園園長から多機能化に向けた取り組みを伺ったほか、乳幼児期の包括的性教育についての講演を聞き、学びを深めました。

アフタースクール担当者会

会長：加川貴俊 担当総主事：濱塚有史

全国で99施設、日々約8,840人の子どもたちが通っています。それぞれの地域のニーズに合わせ形態はさまざまですが、ひとりのこども、ひとつの家庭に伴走した保育が行われています。9月に行われたオンラインシェアミーティングでは、東京・滋賀・北九州の施設の取り組みから、子どもの主体性を大切にプログラム運営について共に考え、意見交換をしました。1月の全国担当者会では、大阪私立大空小学校を舞台にしたドキュメンタリー映画「みんなの学校」を視聴した後、

全国YMCA総主事会議関連報告

同校の初代校長である木村泰子氏の講演を聞き、YMCAが目指す「一人ひとりの子どもが愛されていると感じることができる」アフタースクール運営のため学びを深めました。

発達支援担当者会

会長：太田聡 担当総主事：中田純子

全国約80拠点で放課後等デイサービスや児童発達支援事業所など各種の発達支援事業を展開しており、約1,800人の子どもたちが在籍しています。7月に横浜YMCAで開催した全国担当者会には16YMCAから42人が参加。北海道・横浜・大阪の実践報告や、横浜YMCAが行う就労支援事業所の見学などに加え、金迅野氏（立教大学大学院特任教授）による基調講演を通し、キリスト教的福祉観について学びました。また障害児通所支援事業の制度理解を深めるためのオンラインミーティング「Yのカンリシャ・ジハツカン集まれ」を6月に実施し、14YMCAから31人が参加しました。発達に課題のある子どもたちが増える中、さまざまな分野でそのノウハウが活かされることが期待されています。

■学校事業部門

専門学校担当者会

会長：小畑貴裕 担当総主事：光永尚生

大学全入時代を迎え、すでに廃校となる私立大学も出始めており、さらに人手不足の影響で高卒者の就職も増加。専門学校の学生募集はますます厳しい状況となっています。全国のYMCA専門学校もそれぞれに苦戦を強いられていますが、中には日本人学生に代わって留学生が増えている学校もあることから、秋の担当者会では留学生の募集方法や対応について学びました。また通信制高校からの進学者については、少しずつ増えてはいるものの、毎日登校する習慣がないなど入学後のフォローが必要なケースも見受けられるため、担当者会ではその配慮方法等についても情報を共有しました。YMCAらしい丁寧な学生対応を徹底しながら、時代のニーズを見据えて検討を重ねています。

日本語教育担当者会

会長：立山英展 担当総主事：福山武志

4月から施行された「日本語教育機関認定法」による第1回審査は、全国でも22校のみの認定という狭き門でしたが、大阪YMCA学院が無事に認定校となりました。審査には、文科省の新基準を満たしたカリキュラムや学則など膨大な資料の提出が求められる上、数回にわたる面接や審査も行われるため、担当者会では各校の進捗を共有し合い、知恵と力を合わせて準備を進めています。前年に続き主任教員による「全国YMCA日本語学校カリキュラム検討会」も5回にわたって実施されました。

学生募集は順調ですが、全国的な人手不足に加えて新たな国家資格「登録日本語教員」の影響もあり、教員が不足。処遇改善も大きな課題となっています。

■高齢者担当者会

会長：益聡 担当総主事：塩澤達俊

高齢者部門は、全国5YMCA、約40拠点で特別養護老人ホーム、通所介護施設等を運営している他、複数のYMCAで高齢者を対象にした、フレイル予防などに取り組んでおり、健康寿命の延伸や生活クオリティの向上のために、さまざまな福祉サービスを提供しています。2024年度は1月に全国担当者会を実施し、各YMCAの情報共有を行ったほか、オンライン研修プラットフォームを活用した法定研修講座を開講し、全国YMCAで受講が可能となりました。本講座のさらなる充実と、全国の交流や情報交換の機会を持つことを計画しています。

■ウエルネス担当者会

会長：宇埜充洋 担当総主事：中村隆、上地信親

ウエルネス事業は、アクアティック、ジムナスティック、サッカー、野外、野外施設、バスケットボールの事業部で構成され、全国27YMCAに30,000人を超える会員が在籍しています。5月に盛岡YMCA主管で行われた「第55回全国YMCAリーダー研修会」は、「前途洋々～可能性は無限大～」をテーマに、全国からおよそ120人が参加しました。多様なリーダーが交流し、さまざまな価値観に触れ、それぞれが目指す「リーダー像」に近づく時となりました。11月の全国担当者研修会では、YMCAウエルネスの再興をテーマに据え、閉館の危機からV字復活した竹島水族館（愛知県）の小林龍二館長を講師に招き、自らの持つ強みと地域のリソースを活用した実例から

学びました。2023年度に改訂された全国YMCAウェルネス指導者資格の定着にも力を入れ、今年度は新たに延べ250人以上が資格認定されました。

■ マネジメント部門

総務担当者会

会長：杉村徹 担当総主事：佐竹博、山添仰

労務から法務、財務まで幅広く扱う総務担当者会は今期も役員会、担当者会ともに活発に展開されました。第1回担当者会は仙台YMCAで7月13日～15日に開催。18人が参加し、来年度から施行される公益法人改革における収支相償の原則の緩和について外部講師から学びました。また石巻市の東日本大震災遺構を訪れ、いざというときに総務担当者はどう動くべきかを考えました。第2回担当者会は11月26日～27日、名古屋YMCAで実施。15人が参加し、生成AIの活用による業務効率化や会館活用による財務効果を全国の事例から学びました。2月13日にオンラインで開催された担当者会には20人が参加。4月からの育児・介護休業等の法改正について外部講師から学びました。またこれら担当者会の準備等のため、役員会はオンラインにて全8回開催しました。

公益協働事業担当者会

会長：大久保和生

担当総主事：井上真二、久保田展史

公益協働担当者会は発足から4年目を終えました。2024年度も指定管理事業の再公募が行われるなど、引き続き活発に事業が動きました。第1回担当者会はオンラインで実施（6月27日 30人）し、東京YMCAから「YMCAが指定管理を行うことのメリット・デメリットとその意義」について学びました。第2回は担当者会発足後初の対面開催（2月25日 16人）となり、横浜YMCAに全国から集いました。基調講演では弁護士の齋藤宙也氏（横浜YMCA常議員・日本YMCA同盟監事）より「法務から見た指定管理者」と題して学び、分団討議を経て学びを深めました。さらには対面開催の良さでもある担当者同士のヨコの関係性も構築され、今後の全国協働の発展性の観点からも有意義な時間となりました。

ICT担当者会

担当総主事：村上祐介

開催日：7月8日、11月7日

前年度に引き続き開発中であるプログラム予約システムに決済機能、会員情報管理機能を加えたY-Link全国版に関する開発状況の報告と質疑応答を中心に行いました。第2回ではY-Link全国版の運用に向けて各YMCAに必要な具体的な準備作業についての説明会を実施しました。

■ 英語・国際事業部門

英語教育担当者会

会長：青柳真理子

担当総主事：太田直宏、上村香野子

国際事業担当者会

担当総主事：太田直宏、上村香野子

英語教育は全国23YMCA、42拠点にて実施され、幼児から成人まで、およそ5,300人に対してさまざまな英語教育を提供しています。上半期の担当者会は7月に横浜YMCAで、下半期は11月に山梨YMCAで開催されました。上半期は22人が参加し、外国人講師と共に働くためのよりよい環境や、英語教育業界の動向について学びました。下半期は13人が参加し、東京YMCAの事例から、海外YMCAとの協働キャンプについて、その立ち上げから継続までのノウハウを学びました。1月には2023年度に引き続き、全国の講師同士の交流を目的とした、オンライン交流会“YMCA English Teacher’s Meeting”を開催、全国からおよそ30人が参加しました。

12月には全国の中高生を対象にしたECGL (English Camp for Global Leadership) を開催し、16人が参加。環境や貧困など世界的課題について調べ、課題解決のための考えを英語で発表しました。

国際事業はコロナ禍の影響を最も大きく受けた事業の一つで、海外YMCAとの交流活動が進まない中では国際事業担当者会も中断をしてしまいましたが、2024年度は多くのYMCAで国際協力事業や交流活動が再開したことを受け、国際事業担当者会もオンラインで実施しました。各YMCAからの報告では、全国のYMCAで交流や活動が再開される一方で、一度中段した活動はすぐには再開できないなど、再び軌道にのせるには苦労もあり、それぞれに困難に向き合っているこ

全国YMCA総主事会議関連報告

ともわかりました。またグローバルに活躍する人材養成の必要性についても意見交換をしました。

■ピンクシャツデー 2025

学校で把握された「いじめ」は73万件、自殺や不登校などの重大事態は前年度比40%増の1,300件超、不登校児童は30万人以上と、いずれも過去最多となる中、今年も2月第4水曜日前後に全国各地で「ピンクシャツデー」を開催。園児、学生、会員、地域の方々など5万人余りがピンクの服や小物でいじめ反対をアピールしたほか、いじめを考える授業を行うなど、工夫をこらした取り組みを行いました。

地域の小中学校へのチラシ配布やポスター掲示の他、子どもたちによる行政への表敬訪問も各地で行われました。名古屋YMCAや奈良YMCAでは、独自の紙芝居が作成され、SNS等で発信されました。社会全体でいじめに向き合い、差別や偏見、分断ではなく、誰もが安心して暮らせる社会の創造をめざし、各地で取り組みが進められました。



■ウォーターセーフティーキャンペーン

「ウォーターセーフティーキャンペーン」は、全国YMCAアクアティック事業部会が中心となり、例年6～9月の期間で実施しています。水難事故を防ぎ、かけがえのない生命を守り育むことが目的です。2024年度はウォーターセーフティーキャンペーンの動画を製作したほか、ハンドブックの配布（約12万4千部）、着衣泳講習会（約17,500人参加）、AEDを用いた一次救命処置講習会などの安全講習会（約4,000人参加）など、地域の学校などと協働してさまざまなプログラムを展開しました。これからも、「自分のいのちを守り、みんなのいのちを大切に」する取り組みを全国YMCAで推進していきます。



現勢(全国・世界)

(2025年3月末現在)

組 織

世界の国・地域	120
国 内	
都市YMCA(加盟・準加盟)	34(同盟含む)
・公益財団法人	19
・一般財団法人	7
・学校法人	14
・社会福祉法人	11
・NPO法人	6
・営利法人	4
・任意団体	1
学生YMCA	35
・学生YMCA寮	10
・サークルYMCA・YWCA	13
・休会中・設立準備中・その他	12
うち公益財団法人	3
一般財団法人	1
全国の活動拠点(センター、幼保園、学校、宿泊施設、高齢者施設等、指定管理含む)	302

メンバー

世界で運動に関わる人の数	6,500万人
国内の年間登録者の数	7万5千人

ボランティア

総会構成員	4,847人
ポリシーボランティア	1,880人
ユースボランティア	1,970人
認証ユースボランティア	累計18,856人

※ユースボランティアとは：野外・ウエルネス・障がい児プログラム・国際などの分野で子どもたちに寄り添い、成長を支えるボランティアです。

加盟団体

- ・世界YMCA同盟
- ・アジア・太平洋YMCA同盟
- ・世界学生キリスト教連盟
- ・日本キリスト教協議会

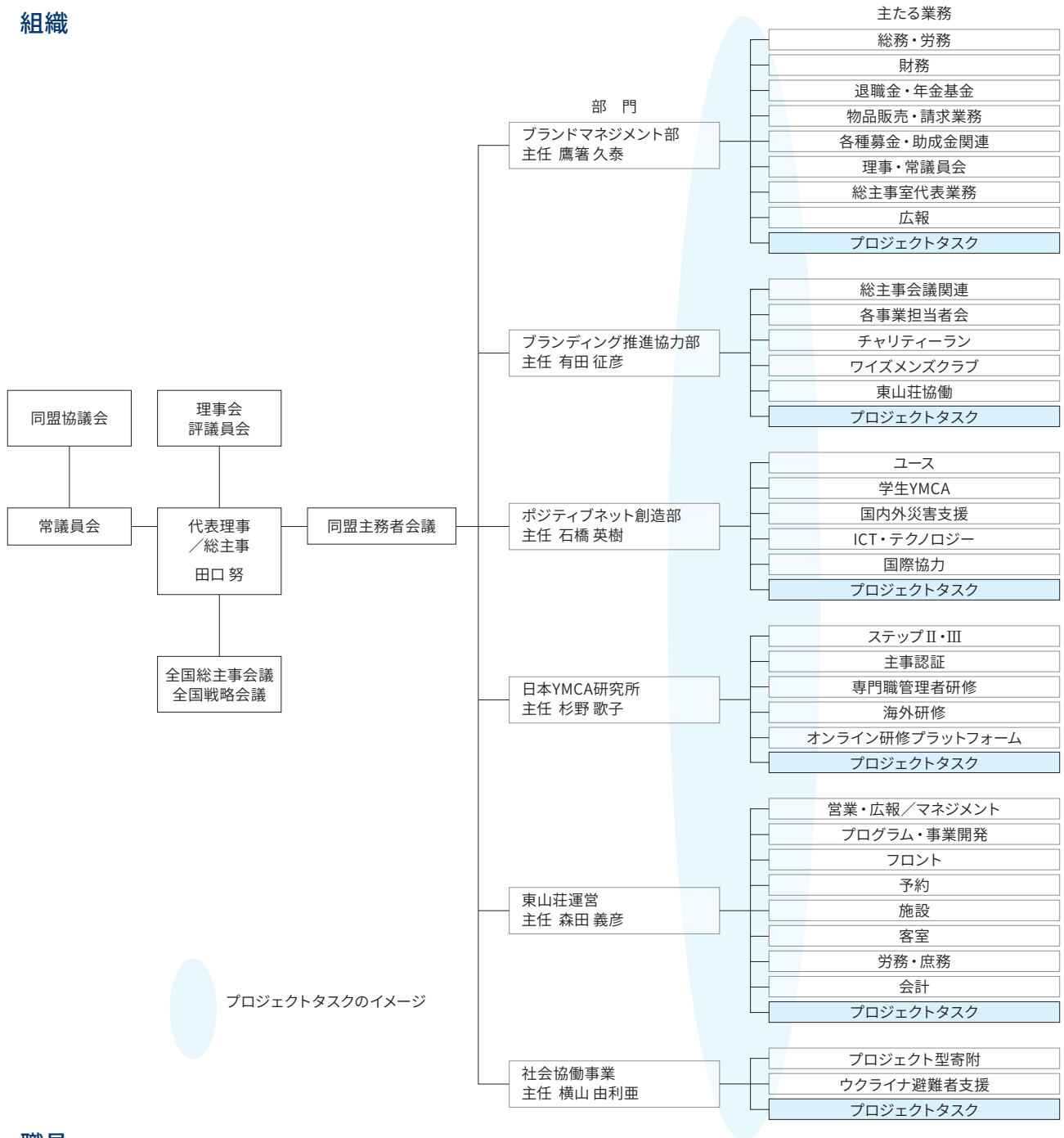
関係・友好諸団体

- ・一般社団法人 ワイズメンズクラブ国際協会東日本区
- ・ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
- ・公益財団法人 日本YWCA
- ・公益財団法人 日本レクリエーション協会
- ・公益社団法人 日本キャンプ協会
- ・公益財団法人 ボーイスカウト日本連盟
- ・公益社団法人 ガールスカウト日本連盟
- ・公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー
- ・公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)
- ・認定NPO法人 開発教育協会(DEAR)
- ・認定NPO法人 日本NPOセンター
- ・認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
- ・認定NPO法人 全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)
- ・一般社団法人 協力隊を育てる会
- ・社会福祉法人 全国社会福祉協議会
- ・「広がれボランティアの輪」連絡会議
- ・ECPAT/ストップ子ども買春の会
- ・教育協力NGOネットワーク(JNNE)

2024年度日本YMCA同盟 組織・職員

(2025年3月末現在)

組織



職員

	主務者	職員	囑託・パート	インターン
四 谷	田口努 横山由利亜 鷹箸久泰 有田征彦 石橋英樹	山下達也 高田京子* 大澤篤人* 伊藤路乃	友廣高也 田附和久 山田紀久美 小野寺みさき リー晴美** 山佐 亜津子*** 高谷唯	松永幸樹 金田和大 松岡知伯 吉岡優 岡野高芽
東山荘	森田義彦 杉野歌子	沼田光隆 横山明子 盛岡美貴 白鳥裕之 滝口敦子 遠藤舞 芹澤多賀子 山田仁 阪田祥章	藤澤幸伸 芹澤正 杉山翔 杉山菜津美 小林加奈 加藤由香里 須藤礼奈 前田琢磨 杉山伊偉 渡邊昌 川口充雄 横田久代 石田敏之 土屋直恵 伊東三恵子 鈴木苑佳	

* 出向 (東京) 真鍋泉 ** 派遣 *** 大阪YMCA兼務出向

2025年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

日本YMCA同盟 2025年度年間基本聖句

一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ
一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

コリントの信徒への手紙1 12章26節（新共同訳）

2024年は、能登半島地震をはじめ、豪雨災害、大規模火災など、国内外で数多くの自然災害が発生しました。平均気温は過去最高を更新し、秋になっても残暑が続くなど、異常気象と災害を多く感じるようになりました。YMCAの野外活動やキャンプなどの自然体験活動にも多くの影響が出てきています。そのような中、災害で傷ついた人びとへの支援を継続し、被災者と共に歩んできました。気候変動や災害の影響などで苦しみにある人びとと共に歩みを進めることは”持続可能な地球のために”の働きであり、SDGsの達成においても急務になっています。

2025年、日本は戦後80年を迎えますが、米中関係の悪化から北東アジアのみならず世界の平和をさらに憂う状況となっています。ウクライナ、パレスチナや中東など世界各地の紛争が終わらない中、それぞれの国で自国第一主義を掲げる政党等の急伸など、社会の分断が広がっています。“公正な社会の実現のために”、戦後80年、これからも“戦後”が続くよう平和への働きを続け、分断の狭間に苦しむ人びとや虐げられている人びとに寄り添い、分裂から一致、そして、人間性を回復し連帯する働きを進めていきます。

2025年問題といわれる超高齢化社会に突入しました。日本の人口の5人に1人が75歳以上の後期高齢者となり、労働力人口減少に伴う社会保障の負担が増し、少子高齢化はさらに加速します。青少年がマイノリティになること、共働き世代の増加など、社会課題や社会構造の変化がすでに生じています。それらの社会課題を踏まえながら、地域社会の中で、子育て・育ち世代から高齢者まで一人ひとりが尊ばれ、生きがいを感じられるよう全人的な成長となる「コミュニティ・ウェルビーイング」の働きを強めていきます。また「やりがいのある仕事と雇用環境の創造」の実践として、職業の場としてのYMCAの環境を整え、スタッフ個々が持つ多様性に対応し、誰にとっても働きやすく、働きたくなるような魅力的なYMCAとなることを目指していきます。

生成AIなどデジタルトランスフォーメーション（DX）が急速に進み、社会が大きく変化しています。これまでYMCAはデジタルネイティブのユース世代がリーダーシップを取り、児童養護施設や災害被災地の児童にプログラミングの機会を提供する働きを続けて来ました。企業や行政とも協働し、ユース世代の活躍の場を広げながら、YMCAのDX対応や、あらゆる人が世代や障がいを超えて社会参画できるよう、テクノロジーを活用した社会課題解決に努めていきます。

地域、そして世界の人びと、世界、国内のYMCA、それぞれ地域やYMCAの課題を持っていますが、この聖句にあるような連帯が築けるようYMCA運動を進めていきます。

事業方針・計画

I. 世界YMCA Vision2030の推進

日本YMCAの代表機能として、加盟YMCAの事業や活動を世界に広げるグローバルネットワークの一つとして世界YMCA Vision2030と結びつけ、世界に広がるグローバルネットワークの一つとして展開することをサポートする。また、日本YMCA同盟の事業を世界YMCA Vision2030の運動を広げる4つの柱に沿って推進する。この2つの役割から、世界YMCA Vision2030を加盟YMCAと共に推進する。

I-1 加盟YMCAの「世界YMCA Vision2030」推進をサポートする

- ① 世界YMCAから発信されるVision2030の実施状況や、推進に必要な情報を加盟YMCAに共有する。
- ② 世界とつながりながら「世界YMCA Vision2030」を推進できるように、世界YMCAの動きとあわせた研修機会を設ける。
- ③ 「世界YMCA Vision2030」の4つの柱に沿った加盟YMCAの事業や活動を国内外に発信する。
- ④ 若者のメンタルヘルス、気候変動危機、平和を願う活動、インクルーシブな社会のための活動など、顕在化する社会課題に対して、

YMCAと目的を同じくするワイズメンズクラブ国際協会を筆頭に、企業、行政、NGO/NPO等をパートナー団体として加盟YMCAとつなぐ。

- ⑤ 急速に進む少子高齢化への対応、子どもの人権が守られ主体的に生きる力を育む取り組み、介護予防プログラム等、地域で子育てから高齢期まで寄り添い伴走する加盟YMCAの働きをサポートする。（コミュニティ・ウェルビーイング）
- ⑥ 社会に閉塞感を持つ若い世代のメンタルヘルスに注視し、夢を持ち、自己実現のために参画できる機会を加盟YMCAと共に創出する。（やりがいのある仕事と雇用環境の創造）

2025年度日本YMCA同盟 事業方針・計画

- ⑦気候変動への取り組みを専門とするNGOや企業と協働し、気温の上昇や豪雨・豪雪による災害の増加等、日常生活にも影響を及ぼしている気候変動の危機に対するアクションを進める。(持続可能な地球のために)
- ⑧国内外のYMCAと協働してユース世代の交流を促進し、公正な世界を創るために貢献できる地球市民の育成に努める(公正な社会の実現のために)

I-2 「世界YMCA Vision2030」の運動を広げる 4つの柱に沿って同盟の事業を推進する

1 Community Wellbeing コミュニティ ウェルビーイング

YMCAは、すべての人が、個人と集団のウェルビーイングを大切にしながら、精神、知性、身体のパランスのとれた成長ができることを目指す。

YMCAは、2030年までに世界中の若者とコミュニティに向けて、高品質で適切かつ持続可能な健康とウェルビーイングへの方策を共創し、提供・提唱する。

- ①プロジェクト型寄附を社会協働事業として深め、社会から共感、支持される「寄附を受ける団体」としてYMCAの姿を強め、全国YMCAの活動支援とその相乗効果を促進する。
- ②4年目に入るウクライナ避難者支援活動を、人びとのコミュニティウェルビーイングを目指す総合的な働きとして継続し、本活動を軸に日本で生活する海外につながる人びとが生きやすい社会に変わることを目指し、多文化共生社会の実現に努める。
- ③自然災害や感染症の流行、社会変化に起因するアクシデント等、その種類や発生時の被害、影響が多様化している状況を鑑み、災害時や緊急時にも一人ひとりが尊重されるよう、加盟YMCAや関係団体とのコミュニケーションを日常的に図り、緊急時の初動がスムーズに起こせるように備える。

2 Meaningful Work やりがいのある仕事と雇用環境の創造

YMCAは、すべての若者が学び、価値のある有意義な仕事に従事し、持続可能な生活を築く権利を持っていると信じている。

YMCAは、経済状況が変化していく中でも、価値のある、公正かつ公平な教育、トレーニング、雇用、起業の機会を創出し、拡大し、提唱していくことを目指す。

- ①現在の若者の関心事やニーズに沿った、中高生やユース世代による社会課題解決のための起業や活動ができるスペースの提供や支援等を行いながら、次の世代が担うYMCAの姿を示していく。
- ②都市YMCAで活動するユースボランティアや学生YMCAメンバーが、所属を超えて活躍できる機会を提供し、YMCAの活動の担い手から、さらにYMCA運動の支援者としてつながるよう関係を深めていく。
- ③加盟YMCAのスタッフが職制を問わず、YMCAの働き人として自己研鑽を行えるよう、全国YMCAオンライン研修プラットフォームの

活用を促進し、学びの機会の提供を継続する。

- ④自己都合による退職者や、ボランティア・リーダー活動を卒業するユースが、YMCAの働きからは離れたあともYMCAとゆるやかにつながれる機会として「YMCAアルムナイコミュニティ」を創設する。同時に「全国YMCAアルムナイ採用制度」を開始し、YMCAの外での経験を持って再びYMCAで働きたいという希望者や、YMCA経験のある人材を求めている全国YMCAに対して有益な雇用機会を創出する。

3 Sustainable Planet 持続可能な地球のために

YMCAは、私たち一人ひとりが地球環境の保護と再生のために行動し、人類が自然と調和して生きることのできる世界へ転換すべきであると考えている。

YMCAは、気候変動に対する若者の積極的な行動と、彼らの主導による持続可能な解決策の活動を推進し、より良い環境を目指す運動体となることを約束する。

- ①地球温暖化、災害の多様化・多発化など、身近な生活に影響を与えている気候変動に対し、YMCAや個人がその歯止めとなる行動変容につながる学びの機会や情報提供を行う。
- ②全国のYMCAが環境に配慮した施設となるために、自然エネルギーの活用によるパワーシフトが進むためのサポート・協力をする。
- ③環境に配慮した素材を使用したノベルティやユニフォームの制作、会議運営でのペーパーレス化、YMCA東山荘での太陽光発電による自然エネルギーの活用、井戸水の活用、プラスチック製アメニティ利用の削減、リサイクル製品の利用に努める。これらの取り組みを全国のYMCAと共有し、日本のYMCAが共に持続可能な地球のために貢献していく意識を高める。

4 Just World 公正な世界の実現のために

YMCAは、正義、平和、公平を求め、すべての人の人権を守ろうと努める若者とコミュニティの力を信じる。

YMCAは、組織的な差別、不公平、不正など、あらゆる種類の人種差別との闘いにおいてグローバルな発言者となり、すべての人の声が確実に届くよう、活動する若者とコミュニティの声を大きくしていく。

- ①YMCAピンクシャツデー、YMCAウォーターセーフティキャンペーン等、人びとの人権、いのちを守るための啓発活動を進める。
- ②2023年4月に日本YMCA同盟四谷事務所内に開設した若者のためのオルタナティブスペース「Why Base.」の運営、活動を通して、多様な若者に寄り添うYMCAの姿を強める。
- ③ウクライナ侵攻、パレスチナ問題、ミャンマー情勢など、紛争や社会情勢により困難にある人びとに寄り添い、国内外のYMCAや関係諸団体と協働し、平和の実現に努める。

II. 継続して全国のYMCA運動の連結ピンとしての同盟機能の維持に努める

国内外のYMCAをつなぎ、人と人、人と組織、組織と組織、そして社会とを有効につなぎ、結びつける連結ピンの役割を担う。また、構築された関係、コミュニケーションを円滑にする“潤滑油”となり各地域におけるYMCA運動が効果的に推進するようローカルYMCAに伴走していく。

- ❶ 世界YMCA、アジア・太平洋YMCA同盟に連帯し、世界最大の青少年団体としてのYMCAのグローバルブランドの価値を高めるために、グローバルな交流の強化や事業化につながる情報共有、協働を進める。またブランディング推進の継続と国内外への広報・アドボカシー活動を積極的に進める。
- ❷ 全国YMCAの事業推進と健全運営のため、全国YMCA総主事会議、事業担当者会や喫緊の課題に対応する各タスクチームの事務局機能を務め、困難な状況にあるYMCAや、総主事不在・スタッフレスのYMCAへの伴走支援を行う。また（事業領域4）社会への貢献の視点から、障がい児支援（チャリティーラン等）やいじめ反対運動（ピンクシャツデー）の取り組みにおいて連絡・調整や社会への発信の役割を担う。
- ❸ 学生YMCA運動の推進のため、各学生YMCAにおける活動や組織運営に必要な支援業務を継続的に実施すると同時に、全国学生YMCA賛助会に代表されるOB/OGら学生YMCAを支える層との関係構築を拡大・強化する取り組みを進める。
- ❹ 全国YMCAの人材育成の機関として日本YMCA研究所の充実した運営を目指す。2年目となる全国YMCAオンライン研修プラットフォームにおいては、各YMCAにおける利用促進を図り、講座や教材の拡充に努める。またYMCAスタッフのためのストレスマネジメントにも取り組む。
- ❺ 行政・政府機関（内閣府、文部科学省、こども家庭庁等）や賛同企業との関係を深め、全国YMCAの事業強化に有益な取り組みや情報を共有するとともに、新たな誘致を積極的に行い、プロジェクト型寄附や他団体との協働につなげる。
- ❻ ワイズメンズクラブにおける区の担当主事をはじめ、中央青少年団体連絡協議会、広がれボランティアの輪連絡会議、キャンプ5団体連絡会議等の各青少年団体、NGO・NPO、キリスト教関係諸団体との関係を深める中で連帯と協働を進め、研修会等の有益な情報を全国のYMCAに共有する。
- ❼ 国内外で発生する災害や紛争に対する人道支援活動において、全国YMCAが速やかに支援活動を開始できるよう初動の調査や情報収集を行う。また、その支援や募金活動において連絡・調整及び情報発信の役割を担う（対策本部機能）。
- ❽ 全国YMCAスタッフが安心して働くことのできる環境と生活維持のため、退職金中央基金・職員年金基金の安定化を図るべく、将来の方向性についての検討を始める。

III. 同盟事務局とYMCA東山荘の運営健全化を目指す

コロナ禍の影響から脱却しつつあるYMCA東山荘は、2025年に設立110周年を迎えるにあたり、今後の将来計画、資金計画の立案を行う。また、YMCA運動推進のために、世界YMCA同盟、アジア・太平洋YMCA同盟も負担金制度検討に入っているが、それらと連動しながら日本YMCA同盟負担金制度なども検討していく。

- ❶ 全国のYMCA運動に寄与する同盟事務局として次世代スタッフの採用や研修に努める。
- ❷ YMCAブランドの推進の継続、世界YMCA Vision2030、社会協働事業を推進するスタッフ体制の構築と、それに即した多様なパートナーとの協働による運営を進める。
- ❸ 全国のYMCA運動推進のため、今の時代に必要とされる同盟事務局としての機能、役割について棚卸しを行う。そのことによって、それに伴った同盟負担金制度のあり方を検討し、同盟事務局の健全運営を目指す。
- ❹ 110周年を迎えるYMCA東山荘の安定した運営を目指し、近隣地域との連携の強化、自然体験の価値訴求、SDGsに対応した施設の改修計画立案を進め、グローバルな人材を養成する国際青少年センターとして確立する。

全国YMCA一覧

都市YMCA

北海道YMCA

(011) 561-5217 札幌市中央区南11条西11丁目2-5

盛岡YMCA

(019) 658-8773 盛岡市中央通3丁目19-22

仙台YMCA

(022) 222-7533 仙台市青葉区立町9-7

ぐんまYMCA

(027) 234-2299 前橋市国領町1-4-1

とちぎYMCA

(028) 624-2546 宇都宮市松原2-7-42

茨城YMCA

(029) 886-6005 つくば市東新井24-7

千葉YMCA

(043) 222-6973 千葉市中央区富士見2-5-15 塚本第三ビル7F

埼玉YMCA

(04) 2939-5051 所沢市小手指町1-39-2

東京YMCA

(03) 6302-1960 新宿区西早稲田2-3-18 日本キリスト教会館6F

在日本韓国YMCA

(03) 3233-0611 千代田区神田猿楽町2-5-5

横浜YMCA

(045) 662-3721 横浜市中区常盤町1-7

山梨YMCA

(055) 235-8543 甲府市中央3-10-7 本館2F

静岡YMCA

(0557) 81-3986 熱海市上宿町19-22 熱海郵便局私書箱31号

富山YMCA

(076) 425-9001 富山市堤町通り1-3-14

金沢YMCA

(076) 255-7782 金沢市里見町44番地1-201

名古屋YMCA

(052) 757-3331 名古屋市千種区春岡1丁目2-7

三重YMCA

(059) 331-8011 四日市市阿倉川町3-17

滋賀YMCA

(0748) 33-2420 近江八幡市鷹飼町537-3

京都YMCA

(075) 231-4388 京都市中京区三条通柳馬場東入中之町2

奈良YMCA

(0742) 45-5920 奈良市西大寺国見町2-14-1

大阪YMCA

(06) 6441-0894 大阪市西区土佐堀1-5-6

和歌山YMCA

(073) 473-3338 和歌山市太田1丁目12番13号

神戸YMCA

(078) 241-7201 神戸市中央区加納町2-7-11

姫路YMCA

(090) 3625-6820 揖保郡太子町原白毛山921

YMCAせとうち

(086) 223-1509 岡山市北区中山下1-5-25

広島YMCA

(082) 228-2266 広島市中区八丁堀7-11

松山YMCA

松山市清水町4丁目75-3-201 砥綿方

北九州YMCA

(093) 531-5750 北九州市小倉北区鍛冶町2-3-9

福岡YMCA

(092) 831-1771 福岡市城南区七隈1-1-10

長崎YMCA

(095) 822-5987 長崎市恵美須町4番7号 YMCAビル1階

熊本YMCA

(096) 353-6397 熊本市中央区段山本町4-1

鹿児島YMCA

(099) 296-7901 鹿児島市真砂町34-6 吉永ビル209号

沖縄YMCA

(098) 832-6817 那覇市壺屋2-17-3

学生YMCA寮

北海道大学YMCA汝羊寮

(011) 736-9918 札幌市北区北12条西2丁目1-20

東北大学YMCA溪水寮

(022) 249-3564 仙台市太白区大罫町8-1

東京大学YMCA寮

(03) 3816-1029 文京区向丘1-20-6

一橋大学YMCA一橋寮

(042) 849-8108 国立市東1-20-12

早稲田大学YMCA信愛学舎

(03) 3203-2858 新宿区西早稲田2-5-2

京都大学YMCA地塩寮

(075) 751-9744 京都市左京区吉田牛ノ宮町21

京都府立医科大学YMCA橘井寮

(075) 771-6913 京都市左京区吉田牛ノ宮町22

九州大学YMCA一麦寮

(092) 707-6464 福岡市西区元浜1-30-3

長崎大学YMCA浦山寮

(095) 846-9241 長崎市長上座町3-13

熊本大学YMCA花陵会

(096) 343-1432 熊本市中央区黒髪2-27-21

学生YMCA

●大学内サークル学生YMCA

北海道・東北地区

尚絅学院大学YMCA、宮城学院女子大学YWCA

関東地区

慶應義塾大学YMCA、国際基督教大学YMCA、

清泉女子大学YMCA、中央大学YMCA、

フェリス学院大学YMCA、立教大学YMCA

関西地区

大阪YMCA国際専門学校YMCA、

関西学院大学YMCA（上ヶ原・聖和・三田キャンパス）、

神戸女学院大学YMCA

九州地区

活水女子大学YWCA、九州ルーテル学院大学YMCA

●休会中・設立準備中・その他

弘前大学YMCA、弘前学院大学YWCA、

山梨英和大学YMCA、同志社大学SCA、

同志社女子大学YWCA、大阪大学YMCA、

神戸大学YMCA、岡山大学YMCA、広島大学YMCA、

鳥取大学YMCA、西南学院大学YMCA、

福岡女学院大学YWCA

2024年度事業報告書

Annual Report 2024

2025年6月1日発行

発 行 公益財団法人 日本YMCA同盟

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号

Tel 03-5367-6640 E-mail info@japanymca.org

制 作 pros creative



みつかる。つながる。よくなっていく。

公益財団法人 日本YMCA同盟

<https://www.ymcajapan.org>